

## 海外感染症流行情報 2014 年 12 月号

### ・西アフリカでのエボラウイルス病の流行

西アフリカを中心に発生しているエボラ熱の累積患者数は、12 月 14 日までに 18,603 人(死亡 6,915 人)に達しました(WHO Global Alert and Response 2014-12-17)。ギニア、リベリア、シエラオネでは患者発生が引き続きみられていますが、発生数は減少傾向にあります。また、マリなど近隣国での新たな患者発生も報告されていません。全般的に西アフリカでの流行は鎮静化の傾向にありますが、今後も十分な警戒が必要です。

### ・中南米でチクングニア熱患者数が 100 万人突破

昨年末から中南米のカリブ海地域を中心に流行しているチクングニア熱の患者数は、12 月中旬までに 100 万人を突破しました(Pan American Health Organization 2014-12-19)。患者数が多い国はドミニカ(52 万人)、エルサルバドル(13 万人)、ハイチ(6 万人)、コロンビア(5 万人)などで、この 1 か月はグアテマラで 2 万人の患者数増加がみられています。米国では輸入例が 2,000 人以上確認されていますが、国内感染例は 11 人に留まっています。

チクングニア熱はネッタイシマカに媒介される感染症で、デング熱に類似の症状をおこします。今年南太平洋のタヒチやサモアなどでもチクングニア熱の流行が報告されています(WHO 西太平洋支部 HP 2014-12-7)。こうした流行地域に滞在する際には、蚊に刺されないようご注意ください。

### ・米国でインフルエンザ流行拡大

米国では 12 月になり 29 の州でインフルエンザの流行がみられています(CDC Flu View 2014-12-9)。検出されたウイルスの種類は A(H3N2) 型が多くなっていますが、このうちの 7 割近くが今年のワクチン株とは異なるタイプのウイルスになっています。このため、今シーズンはインフルエンザの流行が例年になく拡大する可能性があります。なお、ヨーロッパではまだ本格的な流行が始まっていませんが、この地域で今シーズン検出された A(H3N2) 型についても、ワクチン株との相違が報告されています(ECDC 2014-12-22)。

日本でも 12 月からインフルエンザの流行が始まり、米国と同様に A(H3N2) 型の検出が多くみられていますが、ワクチン株との相違は明らかになっていません。

[http://www.nih.go.jp/niid/images/iasr/rapid/inf1/2014\\_51w/sinin1\\_141218.gif](http://www.nih.go.jp/niid/images/iasr/rapid/inf1/2014_51w/sinin1_141218.gif)

### ・中国での鳥インフルエンザ H7N9 の流行状況

中国では 2013 年から沿岸部を中心に鳥インフルエンザ A(H7N9) 型の患者が発生しており、気温の低下とともに患者数が増える傾向にあります。今年も 10 月以降、患者発生がみられていますが、まだ大きな流行にはなっていません。12 月は 7 人の患者が報告されており、発生地は新疆ウイグル自治区 4 人、浙江省 2 人、江蘇省 1 人でした(ミネソタ大学感染症センター HP 2014-12-22)。今

年の傾向として内陸部にある新疆ウイグルでの発生数が多くなっているようです。中国はこれから本格的な冬の季節を迎えるため、この感染症の発生状況には十分な注意をする必要があります。

#### ・中東での MERS コロナウイルス感染症の流行状況

サウジアラビアでは MERS コロナウイルス感染症の患者が 12 月も発生しており、この病気が国内で常在化している模様です。11 月 20 日～12 月 7 日には 11 人の患者が確認されていますが、発生場所は全土におよび、感染リスク(既に診断された患者や動物との接触)が明らかでない患者もみられます(WHO Global Alert and Response 2014-12-17)。

サウジアラビアなど中東諸国に滞在する際には、ラクダなどの動物や呼吸器症状のある患者との接触をできるだけ避けるようにしましょう。

#### ・エジプトで鳥インフルエンザ H5N1 の患者発生

2003 年より鳥インフルエンザ A(H5N1)型の患者が東南アジアやエジプトで報告されていますが、今年の 11 月にもエジプトで 8 人の患者(5 人死亡)が確認されました(WHO Global Alert and Response 2014-12-4)。このうち 6 人は同国中部の Menia 県で発生しており、5 人は成人でした。鳥インフルエンザ H5N1 の患者発生は一時より減少していますが、いまだに致死率の高い感染症であり、流行地域に滞在中は家禽に近づかないなどの注意を心がけてください。